

第30回 春日井市交響楽団 定期演奏会

2022.7.3 (日)
春日井市民会館

主催

春日井市交響楽団

後援

春日井市、春日井市教育委員会、
(公財)かすがい市民文化財団、
中日新聞社、中部大学



春日井市交響楽団HP
(<https://kasugaiphil.org/>)

着席されましたら、ご自身の
座席番号をご記入ください。

列 番

ごあいさつ



春日井市交響楽団
名誉会長

春日井市長
石黒直樹

ごあいさつ

本日は、第30回春日井市交響楽団定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

当交響楽団は、本市で初めて結成されたアマチュア・オーケストラとして平成2年に誕生し、恒例となりました本演奏会は、今回で30回目を迎えることとなりました。

毎回優れた演奏家をお招きし、交響楽の魅力を感じていただける身近なコンサートとして市民の皆様にも親しまれておりますこの演奏会は、本市の音楽文化の裾野を広げる場として大変意義深いものであります。これも市民の皆様、関係各位のご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

今回も指揮は井村誠貴氏にお願いし、毎年客演コンサートマスターをお願いしてきた平光真弥氏をソリストとして、また客演コンサートミストレスには以前からご指導いただいている松原宣子氏をお迎えしました。弦楽器、管楽器、打楽器と、様々な楽器が奏でる音色が響き合っ生まれる豊かな調べが、ご来場の皆様を魅了し、深い感動を与えてくれるものと期待しております。

それでは、本日のこのひとときを存分にお楽しみください。



春日井市交響楽団
会長

中部大学 学長
竹内芳美

ごあいさつ

第30回春日井市交響楽団定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

昨年は第29回の定期演奏会を一年振りに開催することができましたが、今年も多くの方のご支援とご協力により第30回の定期演奏会本番を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

今回は第30回の記念コンサートとなりますので、長年、客演コンサートマスターとしてお世話になっております平光真弥氏をソリストとしてお招きし、三大ヴァイオリン協奏曲のひとつとして親しまれている、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲をお届けいたします。指揮は、2012年より当団をご指導いただいております井村誠貴先生にお願いしております。

井村先生を始め諸先生方の熱意溢れるご指導によって団員たちは演奏レベルを上げ、本日の演奏会のために一丸となって練習を続けてまいりました。日ごろの練習成果がステージで十分に発揮されるものと思います。皆さま、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

これからも当団は音楽を通して春日井市の文化の発展に貢献してまいりたいと考えております。引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日は春日井市交響楽団の定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

当楽団は1990年に創設され、この度30回目という節目の演奏会を迎えることとなりました。

今回の演奏会では日頃からゲストコンサートマスターとしてお世話になっております平光真弥さんをソリストとしてお迎えし、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏していただきます。この曲は三大ヴァイオリン協奏曲のひとつで、節目の演奏会に華を添えていただくのに正にうってつけの曲です。後半にお聞きいただくドヴォルザークの交響曲も明るく田園的な曲で、きっとお楽しみいただけるものと思います。

昨年の演奏会は新型コロナウイルスの影響で来場者を楽団関係者と賛助会員に限定させていただきましたが、本年はコロナ前の演奏会に近い形での開催ができ、本当に良かったと感じています。これからも予想もできないような事が起こるかもしれませんが、この先も皆様に良い音楽をお届けできるよう努めていきたいと考えていますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

最後になりますが、当楽団の活動に当たり日頃からお力添えをいただいております春日井市・中部大学をはじめとした関係各位の皆様に感謝申し上げます。

春日井市交響楽団 Kasugai City Philharmonic Orchestra



春日井市交響楽団は1990年に創設され、市民の音楽愛好家を中心に「市民が演奏し、市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」としての活動を続けてきました。愛称「カポ」(KAPO)は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カポ」(capo 頭・先頭に立つ者)の思いもあります。日曜日には市内外から集まった約60名の団員が、西尾町にある「ハーモニー春日井」のホールで練習し、春日井市の音楽文化の原動力となるべく日々研鑽を積んでいます。

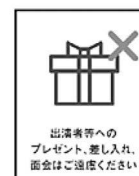
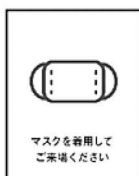
♪ 今後の演奏会予定

◆KAPO室内楽演奏会
10月2日(日) 13:00開演(予定) / 春日井市東部市民センター

◆2022春日井市民第九演奏会
12月4日(日) 15:00開演 / 春日井市民会館



新型コロナウイルス感染拡大防止のためのお願い お客様自身の安全、他のお客様の安全を守るため、特に以下の点について順守していただきますよう、お願いいたします。



プロフィール

指揮 **井村 誠貴** Masaki Imura



指揮者。1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積む。オペラレパートリーは50演目を超え、中でも喜歌劇楽友協会におけるJ.シュトラウスII「ウィーン気質」の邦人初演は注目を集めた。2001年イタリアに留学。現地ではAs.Li.Coの北イタリア・オペラ公演ツアーに同行し、副指揮者として高い評価を得た。2013年には年間オペラ公演回数が日本人第1位になる。管弦楽では、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等を客演。さらにOsaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)、シエナ・ウィンド・オーケストラ等の吹奏楽団との関係も深くその分野でも注目を集めている。ミュージカルでは「レ・ミゼラブル」「マイ・フェアレディ」「ラ・カーージュ・オ・フォール」等のロングラン公演を指揮。また、岩崎宏美や、南こうせつ、夏川りみとの共演や、キダ・タローとのコンサートも話題となっている。2014年には、自身の企画により「ベートーヴェン振るマラソン!」と題して、1日でベートーヴェンの全交響曲を1人で指揮。そのギネス級の活動は大きな話題となった。2011年東日本大震災を受け、毎年チャリティコンサートを開催。9回の演奏会で5,400万円を超える義援金を届けた。指揮を湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在、オーケストラMFI指揮者。春日井市民第九演奏会音楽監督、関西音楽人のちから『集』代表。

客演コンサートマスター/ヴァイオリン独奏 **平光 真弥** Shinya Hiramitsu



愛知県立芸術大学音楽学部卒業。2005年、同大学大学院音楽研究科修了。中村桃子賞受賞。ヴァイオリンを青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、Ewald Danel、岡山芳子の各氏に師事。指揮を紙谷一衛氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。併せて、聴衆賞、オーナー賞も獲得。2007年、2010年及び2012年小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風音楽賞」受賞。2012年には講師特別賞も同時受賞。これまで、プラハ放送交響楽団等ソリストとして多数のオーケストラと共演。2000年からウィーン岐阜管弦楽団、2004年～2021年3月愛知室内オーケストラのコンサートマスターを務めるほか、神戸室内合奏団などの客演コンサートマスターを務める。クラシック音楽を親しみやすくより身近に感じてもらうために、サロンコンサートや学校アウトリーチ等も精力的に行い地域に根ざした音楽活動を展開。愛知県立芸術大学非常勤講師。2022年4月～中部フィルハーモニー交響楽団常任客演コンサートマスター。平成29年度愛知県芸術文化選奨新人賞受賞。

客演コンサートミストレス **松原 宣子** Noriko Matsubara



4歳よりヴァイオリンを始める。11歳より岐響ジュニアオーケストラにて活動。ジャパンユースオーケストラのヨーロッパツアーではコンサートミストレスを務める。京都女子大学初等教育学科卒業。ぎふ・プラハ音楽院、ぎふ・リスト音楽院マスターコース修了。ヴァイオリンを、青山陽子、市川倫子、神原光夫、尾島綾子、長尾治代、松本茂、各氏に師事。

ソロ、室内楽、オーケストラなど各地での演奏活動の他、幼稚園ヴァイオリン講師、大学オーケストラや市民オーケストラのトレーナーなども務める。

音楽で人生を豊かに！をモットーに、子どもから大人まで楽しめるコンサートやレッスン、イベントを展開している。ア・ピアチェーレ弦楽四重奏団、キャトルフィーユ、ローザカルテット、メンバー。M's Music school ヴァイオリン科講師。楽座ストリングス主宰。

プログラム Program

ブラームス：悲劇的序曲 作品81

Johannes Brahms (1833-1897) Tragic Overture, Op81

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64

Felix Mendelssohn (1809-1847) Violin Concerto in E minor, Op. 64

第1楽章 Allegro molto appassionato

第2楽章 Andante

第3楽章 Allegretto non troppo - Allegro molto vivace

《休 憩》 *Intermission*

ドヴォルザーク：交響曲第8番ト長調 作品88

Antonín Dvořák (1841-1904) Symphony No. 8 in G major, Op. 88

第1楽章 Allegro con brio

第2楽章 Adagio

第3楽章 Allegretto grazioso - Molto vivace

第4楽章 Allegro ma non troppo

指 揮 井 村 誠 貴

ヴァイオリン独奏 平 光 真 弥

演 奏 春日井市交響楽団



終演後、アンケートにぜひご協力ください。

※QRコードを読み取るとWebでご回答いただけます。

プログラムノート

《悲劇的序曲》

ブラームスは、接近した時期に性格の異なる曲を作ることがしばしばありました。例えば、「交響曲第1番」とその翌年の「交響曲第2番」や、「ヴァイオリン協奏曲作品77」とその翌年の「ヴァイオリンソナタ第1番雨の歌作品78」が見られますが、「大学祝典序曲作品80」と「悲劇的序曲作品81」もその良い例です。

「大学祝典序曲」は「笑う序曲」と呼ばれており、1879年にブレスラウ大学の哲学科から名誉博士号を与えられたことに対する返礼として、1880年の夏、保養地パート・イシュルで書き進められました。この際ブラームスは、この「笑う序曲」と対になる「泣く序曲」を書こうと考え、この「悲劇的序曲」が作曲されました。そして、1880年12月26日、ハンス・リヒター指揮ウィーンフィルハーモニー管弦楽団により2曲揃って初演されました。

「大学祝典序曲」は返礼のために作曲されましたが、本当にブラームス自身が作曲したかったのは「悲劇的序曲」だったのかもしれませんが。

「悲劇的」とありますが、力強い意志によって挫折せずに生き抜くというメッセージが込められていると思います。その後の交響曲第3番にもつながる作品で、ブラームスらしさが沢山盛り込まれている大変素晴らしい曲です。(Tb. 渡辺正樹)

《ヴァイオリン協奏曲ホ短調》

「メンコン」の略称で知られているこの曲の作曲家メンデルスゾーン(ヤコブ・ルードウィヒ・フェリックス・メンデルスゾーン=バルトルディー)は、1809年2月3日ドイツのハンブルク生まれ。祖父は哲学者、父は銀行経営、母は宝石商でピアニスト。とても裕福で恵まれた家庭、いわゆる超～お坊ちゃま育ち。後に有名なピアニストで作曲家となる姉とともに、幼少のころから音楽はもちろん絵画・数学・文学・語学…など最高レベルの教育をうけ、その才能を發揮した。「メンデルスゾーンの絵画」で検索していただくと彼が描いた美しい風景画をご覧いただけるであろう。人柄もよく人脈も広く、10代のころにあの文豪ゲーテと60の年齢差を超えて、親交を深めた話はよく知られている。

音楽に関してはピアノやヴァイオリンを自ら演奏し、作曲も勉強した。10代のころから父が抱えていた専属のオーケストラで指揮をして自作の曲を演奏することもあった。なんとお資沢でうらやましい話である。20歳の時にはバッハの「マタイ受難曲」を指揮・公演して歴史的な大成功を収め、忘れられかけていたバッハの偉大さを世に再認識させた。これは音楽史に残る大きな出来事といえる。ほかにも「楽団員の年金制度など労働環境の改善」「音楽学校の創立」「指揮者の職務の独立=指揮棒を振るスタイルの創始者」などなど現代の音楽に多くの影響を残している。

28歳の時に美しく家庭的なセシルと結婚。5人の子に恵ま

れ、幸せな結婚生活を送った。

結婚の翌年、親友のヴァイオリニストに「来年の冬までにホ短調の協奏曲を献呈したいと思う。」と手紙を書いている。それがこの「メンコン」である。実際に完成したのは6年後!その間この親友に何度も独奏パートについて相談をしている。冒頭部分からいきなり約24小節にわたり高音(E線)で華やかに演奏されるようになったのも、親友のヴァイオリニストのアドバイスによるものだとされている。

「メンコン」の初演はメンデルスゾーンが36歳の時。この親友のヴァイオリニストのソロで演奏されたが、メンデルスゾーンは過労などにより健康を害して静養中だったため立ち会うことはできなかった。その後、メンデルスゾーンの体調は一進一退で優れず、敬愛していた姉の死による精神的なダメージもあり、38歳という若さで帰らぬ人となった。

晩年、体調を崩すまでは大きな苦難なく恵まれた人生だったこともあり、彼の作風は煌びやかで美しく穏やか…甘美なメロディー。「メンコン」はその集大成ともいえる。

「メンコン」が当時画期的な作品と言われた特徴。

①いきなりソロ!しかもほぼソロ弾きっぱなし!

たった1小節半の序奏でいきなりソロの第一主題。皆さん一度はお聞きになったことがあるはずの旋律で始まる。そして3楽章の終わりまでソリストほとんどお休みなしも、なかなか珍しい。

②カデンツァがカデンツァでない?(1楽章)

カデンツァとはソリストがオーケストラの伴奏を伴わずに自由に即興的に演奏すること。のはずが、この曲では作曲者が詳細に全てを書きおろしている。しかも通常は楽章終わりにあるのだがこの曲では中間部(展開部の終わりで再現部の前)にある。

③全3楽章がぶっ続け!

全3楽章で構成されているが、楽章間に休みはない。私のようなクラシック初級者の方だと「え?第2楽章と第3楽章は?やらないの?」というパターンにはまる。

※各楽章の始まりは以下参照。

【第1楽章】冒頭ソロは高音で煌びやかな第一主題。メインデッシュを始めに味わってしまう感覚だ。楽章の終わりは低くて優しい音のファゴットが残る。

【第2楽章】(ファゴット→フルート→ヴィオラ→1stヴァイオリン→2ndヴァイオリン→チェロと重なる。甘美で切なく…優しく暖かい旋律…でも再現部でどこか熱い決意を感じる…ゆったりと穏やかな楽章(6/8拍子)。

【第3楽章】4/4拍子に変わりややテンポアップした序奏が14小節あり、途中の10小節目あたりから短調から長調に転ずる。そして更にテンポアップしてファンファーレへ!勇壮活発でおどけたようなソロの第一主題へとつながる。

お家柄が良く、多方面で逸脱した才能を發揮した。さらに性格もよいことから人脈も広く、イケメンなのに女性関係はきれいで家庭的…お会いしたかったな～♡ (Va. 菅原弘美)

《交響曲第8番ト長調》

アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）は、豊かな自然に囲まれたモルダウ河ほとりのネラホゼヴェス村で生まれた。実家は肉屋兼居酒屋。彼は幼い頃から楽器に親しみ、音楽家として生きる事を望むが、父親に言われるがまま肉屋職人としての資格を取得した過去を持つ。しかし最終的には、父親が折れ、プラハのオルガン学校へ入学した。18歳でプラハの小さな楽団のヴィオラ奏者となり、しばらくして劇団オーケストラに移る。以後12年間、ほとんど誰にも知られずに作曲をしながらヴィオラ奏者として収入を得る生活が続いた。

作曲家として初めて成功したのは彼が32歳の時だ。2年後には、オーストリア文化省に認められ、国家奨学金を受ける身分になった。その時、ドヴォルザークの才能を高く評価し、奨学金を受け取れるように計らったのがブラームスだった。

それからの彼の人生は、大きく変わることになる。子どもを授かり、良妻の支えもあって、立て続けに傑作を発表する。、立て続けに傑作を発表する。活躍は国外にも広がりドイツとイギリスで熱狂的な人気を得る。アメリカに渡り、ナショナル音楽院院長を務める。数々の名曲を生み出し、帰国してからはオペラの作曲に専念するが、オペラ作曲家として成功する夢が叶う前に、62歳でこの世を去る事となる。死因は脳卒中とされている。

ドヴォルザークの音楽の魅力は、親しみやすい旋律が次から次へと現れるところにあるだろう。旋律発想力がとても豊かである。

交響曲第8番は、1889年にチェコのボヘミアで作曲される。夏季の2ヵ月半で作曲された。ドヴォルザークの他の交響曲とは違い、明るく陽気な印象を与える。チェコ風の明るく詩情豊かな作品に仕上がる。旋律が自然に流れ、わざとらしさを感じさせない。

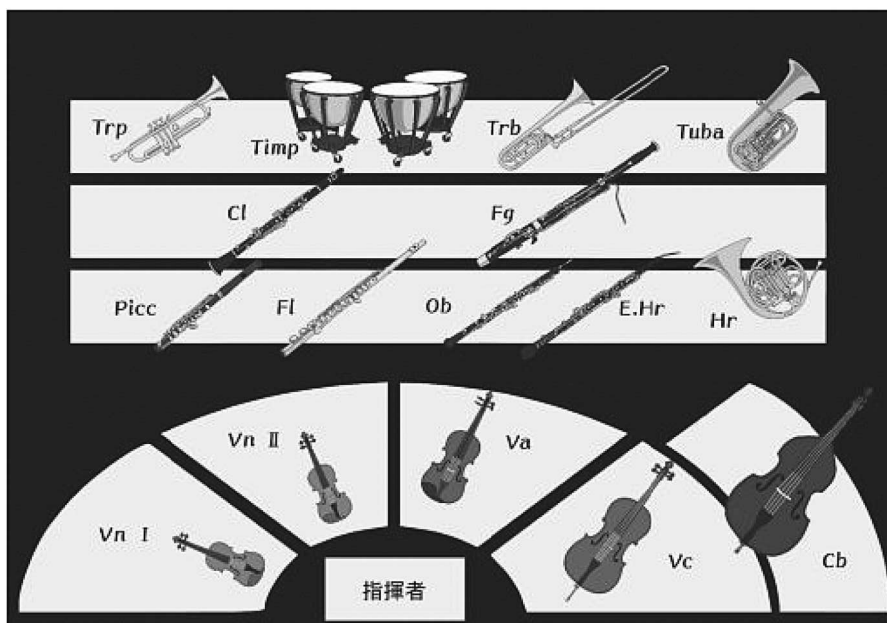
【第1楽章】ト長調の曲だが、ト短調から始まる。チェロ、ホルン、クラリネットによる詩情豊かなメロディーにより音楽が進んでいく。この序奏は、この後も2度にわたって再現される。ティンパニの連打で盛り上がると、鳥の鳴き声のようなフルートの音色に誘われて、第一主題がト長調で登場する。第二主題は、ロ短調で木管楽器が登場する。イングリッシュホルンによって2オクターブ低く演奏される。やがて第一主題は短く劇的なコーダでテンションを維持したまま曲を閉じる。

【第2楽章】ハ短調の曲である。ドヴォルザークらしい音楽でボヘミアの田舎の風景を感じさせる楽章となっている。弦楽器が主題を演奏し柔らかく終わると中間部は長調に転じ、フルートとオーボエのソロの後にヴァイオリンのソロが現れる。ところどころ激しく感情的になる部分がある。最後は短く盛り上がった後に、ハ長調の「夏の日の田舎の穏やかな風景」のように優しく終わる。ドヴォルザークらしいクリエイティブな楽章と言えるだろう。

【第3楽章】ト短調の曲である。全曲中で最も聞きなじみのある楽章である。3拍子の舞曲であり、スケルツォではなくワルツ風である。中間部の旋律は、ドヴォルザークが作曲した歌劇『がんごな連中』からとられたものである。ト長調4拍子となる力強いコーダも同じ素材を元に行っていると言われている。

【第4楽章】ト長調の変奏曲で主題と変奏が絡み合う、激しい楽章である。トランペットのファンファーレで華やかに始まる。ティンパニソロがあり、やがてチェロが穏やかに主題を奏でる。変奏が繰り返され音楽が激しくなっていく。ここでは、ホルンのトリルが特徴的である。第二主題に相当するハ短調の第五変奏が始まると、この主題を元に激しく展開し、短い展開部を経て、最初のファンファーレに戻る。やがてゆっくりとした詩情豊かな変奏が流れる。最後は、力強く輝かしいコーダで曲を閉じる。（Cb. 大矢光知留）

楽器配置図



- Vn : ヴァイオリン
- Va : ヴィオラ
- Vc : チェロ
- Cb : コントラバス
- Picc : ピッコロ
- Fl : フルート
- Ob : オーボエ
- E.Hr : イングリッシュホルン
- Cl : クラリネット
- Fg : ファゴット
- Hr : ホルン
- Trp : トランペット
- Trb : トロンボーン
- Tuba : チューバ
- Timp : ティンパニ

※音響等の関係で配置が変更になる場合があります。

BRAVO!

本日はご来場ありがとうございます。

コロナ禍でのコンサートのため、声を出す代わりにこのプログラムを掲げて「BRAVO! (ブラヴォー!)」の思いを伝えて頂けると幸いです。

第30回春日井市交響楽団定期演奏会 出演者・スタッフ 一同



アンケートにご協力を
お願いします